

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第65回 笑顔で好循環を生む

仕事の楽しみが分かるともつと仕事をしたくなり、好循環を生みます。前向きな雰囲気は部署内に失敗にくじけない強固な風土を作ります。

まずは笑顔を意識
余裕を生み楽しむ

自分が部下の立場になって考えてみてください。いつもむずかしい顔をしている上司といつも笑顔の上司なら、どちらの上司と一緒に仕事がしたいですか？ 答えは、もちろん笑顔の上司ですよね。そんな当たり前のことながら、いざ上司となると笑顔でいることを忘れてしまう人は結構多いものです。むずかしい顔をし

ていると仕事をしているような雰囲気になるとか、上司としての威厳が増すなんて思っている人がいたら、今すぐ考えを改めるべきです。

仕事をしていれば、笑顔でいられない状況ももちろんあります。しかし、わたしは極力笑顔でいるように心掛けています。笑顔でいられないというのは、自分に余裕がない証拠ですから、結局は自分のキャパシティのなさを露呈しているよ

うなものです。余裕のある上司であればあるほど、笑顔を絶やしません。

では、部下に仕事の楽しさを教えるための第一歩は何でしょうか。それは、もちろん上司であるあなた自身が、心から仕事を楽しむことです。

楽しみの好循環
雰囲気は伝染する

一生懸命仕事をする事により、それだけ仕事の楽しさが分かるようになり、楽しさが分かると、さらに仕事をしたくなるという好循環の体現者に、上司自身がならなければなりません。心から楽しんで仕事を



している上司を見ていれば、部下にもその雰囲気は伝染していきます。やがて、部下たちも頑張つて業績を上げれば大きな達成感が得られ、仕事は楽しいんだということを感じていきます。

署ならば、それだけ大きな成果を上げられるでしょうし、強固な組織にもなっていくでしょう。多少のトラブル、失敗にはくじけない風土も出来上がるでしょうし、会議やミーティングもとてもアイデアに富んだものになるはずです。

あなたの部署を見渡してみてください。どれだけの部下が本当に楽しんで仕事をしているでしょうか。もし、楽しんでいる人が少ないと感じたら、まず上司であるあなた自身が仕事を楽しく、その姿を部下たちに見せているかを再検証してみてください。

『上司のルール』より転載